

トドマツ

マツ科
モミ属
樹高 30m



枝は毎年一段ずつ
輪のように広がる

葉を食べる
エゾモンガ

共生するモミタケ

四季の観察ポイント

春

雌花は前年の
枝につく

雄花

夏

受粉した雌花は
成熟して暗紫色になる
葉の先は二つに分かれ
裏には2本の白線が
目立つ

秋

完全に熟した
松ぼっくりは種子を
飛ばしてバラバラに
なり芯だけを残す

冬

冬芽は松ヤニに覆われる



ヤチダモとの間を
行き来する
トドネオオワタムシ
(雪虫)



種子

樹皮にも
松ヤニが
つまった
ヤニツボ
がたくさん
ある



リリィの絵日記

トドマツ

わーい本物の木のツリー!!
もーみーのきーのきー

北海道のモミと
いえばトドマツ。

葉先がやわらかく
枝が上を向く
トドマツはツリー
に最適だね。

なんかすっきり
みかんみたいな
香りがする!

トドマツから
はアロマ
オイルが
取り出せるの。

冬の乾燥した空気
をきれいにし
てくれるよ。



樹皮も白っぽい
灰色できれい

材も白くてきれいなんだ。

軽くて
柔らかくて
加工しやすい
から
建築材など
として重宝
されてきたよ。

寒さに強く、少ない光でも
成長できるトドマツは

北海道の森からのおくりもの。

トドマツは北海道で一番木材としての量が多い木です。寒さにも強く、少ない光のもとでも耐えますが、その分成長は遅く、苗木を作るのに4年もかかります。幹から出る枝が上を向くことから「とどけ」との「トドマツ」と覚えませう。木の内部に水分を多く含むため冬の寒さが厳しい日には、内部の水が凍って幹が割れる「凍裂(とつれつ)」が起こることがあります。

トドマツの加工のながり

トドマツの材は木目がまっすぐで白く、軽く柔らかいことから、加工しやすいため、家の柱や板など建築材・土木材として利用されてきました。また昔は魚を入れる魚箱や、お棺・お墓に立てる卒塔婆(そとば)にも使用されていました。

近年はCLT工法など新しい加工法の発達で、中高層建築への応用も期待されています。

アイヌ民族のトドマツ

トドマツの名前はアイヌ語で「ハイマツ」を意味する「トトマブ」を間違えたとする説があります(実際は「フブ」といいます)。冬場の狩りの時には、トドマツの枝で狩り小屋の屋根を作ったと言われています。